

区連会 資料 4-1

令和8年10月19日

各自治会町内会 会長 様

旭保護司会 会長 黒須 正明

「保護司会だより旭」発行と送付について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

旭保護司会につきまして、日頃より並々ならぬご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

この度、保護司会の活動状況などの一環をお知らせいたしたく「保護司会だより旭第47号」を発行しましたのでご送付申し上げます。

何卒、ご高覧頂きますようお願い申し上げます。

1 送付部数 : 各 1 部

GREEN
x
EXPO
2027
YOKOHAMA JAPAN

©Expo 2027

社会を明るくする運動
駅頭キャンペーン
鶴ヶ峰駅にて



相鉄バス内にも掲載しました



堀口旭区長も参加しました

保護司会だより 旭

発行所 旭保護司会広報部
発行責任者 会長 黒須 正明
事務局 旭区社会福祉協議会
旭区鶴ヶ峰 1-6-35 ぱれっと旭
印刷所 小松印刷株式会社

じゃおクラブ「湘南CSS」における 研修会を開催して

旭保護司会 石村 利幸

「じゃお」とは、おやじを逆さ読みした造語です。じゃおクラブは、県内及び町田市の地域を四つ（湘南県央・ベイサイド・多摩田園）に分けて、健康維持・自己啓発・地域貢献を図る目的で、一九九一年七月に設立されました。私は、ベイサイド（横浜地区）の会員です。

「CSS」とは、「クリエイティブシニアライフ サロン」の略称です。「今考えなければならぬこと、今しなければならぬこと、もっと知っておきたいこと、新しく知りたいこと」をメンバーがともに考え調べ、皆に伝え、充実した生活に役立てる目的で、湘南地区独自でスタートしたものです。

七月七日、藤沢市明治市民センターにおいて、じゃお湘南CSS会員の皆様へ、保護司会及び薬物乱用防止指導員の活動内容をお知らせし、違法薬物問題について研修しました。この研修会では会員皆さまが熱心に聴講され、質疑応答も活発な質問・意見が出ました。実に、好奇心旺盛な方々の集団だと実感しました。



感想文では、「保護観察対象者の立ち直りを支え無報酬のボランティアで支えられていることを知り、改めて保護司の使命と社会的意義に敬意を抱いた。薬物乱用が本人や家族地域社会、さらには人生そのものに大きな影響を及ぼすことを再認識した」等の感想をいただき、ありがとうございます。

折しも七月は、社明運動の強調月間であり、保護司活動の重要性に加え、更生保護ボランティア活動の存在を発信する、有意義な研修会であったと思っています。

社会福祉協議会と保護司会のつながり



旭区社会福祉協議会
事務局長 三木 渉

旭区は地域活動が活発で、人と人とのつながりを大切にするまちです。自治会・町内会をはじめ、多くのボランティア団体が地域福祉を支え、誰もが安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。

その中で、社会福祉協議会と保護司会は、それぞれの役割を担いながら地域を支える重要なパートナーです。社会福祉協議会は、高齢者の見守りや子育て支援、地域福祉活動の推進などを通じて住民同士の支え合いを育んでいます。一方、保護司会は、犯罪や非行をした人の立ち直りを支援し、再犯防止と安全・安心な地域社会の実現を目指しています。

立ち直りには、本人の努力だけでなく、地域の理解と温かい見守りが欠かせません。住まいや仕事、人とのつながりなど、生活の基盤を整えるうえで地域の力は大きく、連携は重要な支えとなります。

また、地域行事や福祉活動への参加は、社会とのつながりを取り戻すきっかけにもなります。こう

編集後記

地震と大雨。自然災害と言われるながら、都市化や温暖化という人為的要因を多分に含んだ被害が大きくなっているように最近感じられます。保護観察対象者も、SNSなどによって犯罪そのものが「肯定」されうると錯覚している部分があるように思えます。やってはいけないことは絶対にしないと、対象者には理解してほしいと思いつつ、余裕なく過ぎていく日々です。ふー。(白濱 記)

更生保護を日本の「あたりまえ」に



横浜保護観察所長 田島 佳代子

旭保護司会の皆様には、平素から地域に根ざした更生保護の諸活動にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、本年七月の「社会を明るくする運動」強調月間の主要行事も無事終了することができました。非常に暑い中での活動、本当にありがとうございました。

犯罪や非行からの立ち直りを支えるという「更生保護」という言葉は、一般の方にはあまりなじみがありません。そのため、今年の「社会を明るくする運動」では、はじめて「統一テーマ」が設定されました。今年の統一テーマは「保護司をはじめとする更生保護ボランティアを広く知ってもらう」です。更生保護は、保護司や更生保護女性会、BBS会、協力雇用主など地域のさまざまなボランティアに支えられています。まずは「更生保護」を知ってもらうことによつて、この言葉を誰もが知っている日本の「あたりまえ」のものとなり、

立ち直りの支援の輪が更に広がることを目指し取り組んでまいります。

また、本年十二月には、更生保護制度の充実を図るために保護司法等の一部を改正する法律が施行される予定です。改正後の保護司法では、保護司の安全確保に関する国の責務が明記されるほか、更生保護サポートセンターの法制化等が盛り込まれています。

不透明な社会情勢のもと更生保護の課題は多いですが、更生保護の原点は、犯罪や非行を犯した人たちに寄り添い、一人ひとりの立ち直りを信じ、地域における地道な活動を継続することです。

今後とも更生保護に対する変わらぬお力添えを賜りますようお願いいたします。





この度、名誉ある褒章を頂きました。とても光栄と思っております。また、皆さまよりご丁寧なお祝いの言葉を頂きまして、心より感謝しお礼申し上げます。

ふり返りますと、上白根地区の連合会長から推薦を受け、平成十六年十月に委嘱されてから、二十二年の月日が流れました。その間、数々の対象者を担当してきました。ガラスが割られ騒然とした自宅に訪問したり、対象者の父親から夜分に連絡が入り、愚痴や不安に長時間にわたり耳を傾けたこともありました。こうした活動の中で、対象者の気持ちに寄り添い、共に歩む更生の大切さを実感しました。



藍綬褒章の受章にあたり

保護司 高橋 美登

また、保護司会では犯罪予防部に所属して、中学校専任教諭との話し合いの中で少年の現状を語り合いました。更に薬物乱用防止指導員も務め、保護司の立場で中学校の教室で生徒たちにお話ししたことにも印象に残っています。

こうした長年にわたる活動は、まわりの皆様のご支援とご協力の賜物と思い、あらためて身の引き締まる思いです。先輩保護司や良き仲間によるご指導あつてのことと実感しております。

保護司会、観察所、行政、OB会と、皆さまに感謝しかありません。ありがとうございました。



希望ヶ丘駅前にて

「社会を明るくする運動」駅頭キャンペーンに参加し、啓発資料の配布を行いました。当日は厳しい暑さの中での活動となりましたが、道行く多くの皆様には温かく資料をお受けいただき、おかげさまで無事に終えることができました。

活動を通じて、自治会や各種団体で日頃からお世話になっている方々と久しぶりにお会いする機会にも恵まれ、改めて地域のつながりの温かさを感じました。顔なじみの皆様と笑顔で言葉を交わす中で、いつもの親近感もわきあがり、同じ地域で支え合うことの心強さを実感しました。

防災・防犯・再犯防止など、取り組む分野はそれぞれ異なりますが、「安全で安心して暮らせる地域



社会を明るくする運動

旭区暴力団排除対策推進協議会

会長 澁谷 雅行

をつくる」という思いは私たちの活動と共通しています。その思いを形にしていくなかには、日頃からの連携と協力、そして近隣の方々とつながりを大切にするのが欠かせないと、今回のキャンペーンを通じて改めて痛感しました。

今後関係団体の皆様との協力関係を一層深めながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりに微力ながら努めてまいります。引き続き皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



町内会掲示板や相鉄バス内にもポスターを掲示しました



横浜市立上白根北中学校 校長 村上 直幸

つながりが明るく未来を創る

近年、AIの急速な普及によって私たちの生活は便利になった一方、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。インターネットやSNSを通じて膨大な情報に触れることが出来る時代だからこそ、その情報を正しく判断する力や、自ら考えて行動する力がこれまで以上に求められるのです。また、若者を狙った闇バイトなど犯罪への入り口が身近になっている現状に、学校教育に携わる者として強い危機感を抱かずにはられません。

こうした時代だからこそ、子どもたちを守るために何が必要なのか、それが最新の技術だけではなく人と人との温かいつながりなのです。学校、家庭、そして地域がそれぞれの立場で子どもたちに関わり、悩みや不安に耳を傾けて「あなたを大切に思っている」というメッセージを送り続けることが、非行や犯罪を未然に防ぐ大きな力になると考えます。



専任教諭と保護司の合同研修会
二俣川ケアプラザにて

保護司の皆様は、更生を支える活動を通して「人は変わることができる」という希望を地域に示してくださっています。その姿勢は、失敗を責めるのではなく、再び歩み出す力を信じる学校教育の理念とも重なります。

未来を担う子どもたちにとって、学校だけではなく地域全体の支えが欠かせません。今後も保護司会をはじめとする皆様とのパートナーシップにより、子どもたちの健やかな成長を支えてまいりたいと思います。

去る七月二十三日（木）、「ぱれつと旭」にて開催された地区社協研修会に参加した。

地区社協研修の一環でこの会で保護司活動を紹介し理解を深めるべく、旭保護司会から白濱泰子と寺田崇裕が、保護観察所から日高直哉観察官が出席した。

区内各地区社協代表三十五名が出席され、分科会の時間をお借りして区内保護司の人数や件数、保護観察や環境調整の制度を紹介した。

後半に設けられた質問の機会では、対象者に対する金銭的な支援のしくみや保護司活動に地域がどう貢献できるか、保護司活動へ家族の協力等々、具体的な活動に関する質問が出た。また対象者の詳細がわからないままでは、地域として具体的な方策を模索しづらいとの声もあった。

若葉台社協の峰松雅子さん、入江ゆきよさんからは、「普段、保護司の活動を知る機会はなかったが、今回垣間見えたことは有意義



広報部 寺田 崇裕

だった。こうした保護司の活動を知り、何よりも社会・地域の一員として更生に関わる、見守ることの大切さを実感した」、「対象者と会う前から、保護司の活動が始まっていると知り、大変感心した。地区社協が、地域に関わる時と同じような苦労があると実感した。人間関係が希薄になる昨今、やはり人との関わりによって地域がなり立っていると再認識した」と、励ましのお言葉を頂いた。

地区社協分科会で、保護司活動を紹介する機会を設けて頂き、関係者各位に心よりお礼を申し上げます。